

独創的な感性

大正から昭和にかけて活躍かつやくした陶芸家とうげいかの富本憲吉とみもとけんきちは、独創的なデザインの絵付けで知られています。過去の伝統的な模様を用いずに、常に新しい発想で斬新ざんしんな図案を生み出しました。

彼かれの有名な信条は、「模様から模様を作らず」です。

富本がモチーフにしたのは、実際に目の前にある花や蝶ちよう、川や道の風景でした。既存きぜんのパターンを踏襲とうじゆつせず、自分が心を動かされたものを模様にするからこそ、そのデザインは生き生きと輝きかがや、人々を魅了みりようしたのです。

いかにも、芸術家特有のこだわりという印象があるかもしれませんが、私たちにも参考になる考え方です。

たとえば仕事において、「マニュアルにそう書いてあるから」「上司がそうしているから」という理由でする挨拶あいさつと、「お客さまに心から感謝を伝えたい」という心でする挨拶では、伝わるものが違うちがうのではないのでしょうか。過去の方法を踏襲するのが、悪いわけではありません。大切なのは、そこに心が込めこめられているかどうかです。

仕事を通して、あなたの心が表現されるのです。

今日の言葉

仕事に対する哲学を持ちまじょう

今日の気づき

富本憲吉 明治19～昭和38年（1886～1963年）奈良県生まれ。陶芸家。東京美術学校（現・東京芸大）卒業後、英国留学。イギリス人陶芸家バーナード・リーチと親交。日本の陶芸の近代化を成し遂げたといわれ、昭和30年に人間国宝に認定された。

コメント